

新型コロナウイルスの流行により昨年よりオンラインに移行した ATAC カンファレンスは、今年もオンラインで12月26-27日に開催されます。しかし、オフラインの対面で話し合うカンファレンスの良さを忘れたわけではありません。対面でない伝わらないこともたくさんあると思います。

ポストコロナ時代のカンファレンスのあり方を模索するために11月に少人数でのオフライン型ワークショップを新型コロナウイルスの感染予防に留意しつつ2年ぶりに開催いたします。

【日時】 2021年 **11月7日** (日) 9:30-16:00 [受付 9:00-]

【講師】 中邑 賢龍(東京大学先端科学技術研究センター 教授)

坂井 聡(香川大学教育学部 教授)

井上 賞子(安来市立荒島小学校 教諭)

赤松 裕美(東京大学先端科学技術研究センター 特任研究員)

【場所】 国立京都国際会館(〒606-0001 京都市左京区宝ヶ池)

【定員】 30名 [参加費] 15,000円(昼食はお持ちの上ご参加ください)

ATACセミナー / オフライン

特別支援教育と アクティブ・ラーニング

日時 2021. **11.7** sun 9:30-16:00

場所 国立京都国際会館 主催 atacLab

お申し込みはこちらから

エイタックラボ



プログラム内容 9:30-16:00 [参加受付 9:00-]


好きなことや得意なことは子ども達は自ら学んでいきます。実際に幼児期の子どもを見ていると、全員がアクティブ・ラーニングをしています。それが学校へ入ると、与えられたテーマを一斉に同じペースで学ぶことを求められ、いつしか受動的な学びに変わっていきます。社会の中でも目的的に効率よく学ぶことが望まれます。大人もいつしか能動性を失っているように思われます。その中で、学びに意欲を失っている子どもが生まれています。彼らにも能動性がないわけではありません。ゲームや YouTube を積極的に楽しむ姿が見られます。しかし、その閉じた世界に生きる子どもを見て不安を感じる人も多いのではないのでしょうか？学校や家庭で子どもの能動性を引き出すにはどうすればいいのでしょうか？それは、彼らの特性を見立て、それを引き出すシナリオを描き、環境を準備することです。

ここでは事例をあげて、能動性の引き出し方や、学校や家庭での具体的な実施方法について皆さんと考えていきます。全く状況の異なる子どものアクティブ・ラーニングを考えた時、子どもの学びの本質が見えてくるでしょう。

- 1 なぜ子どもたちはゲームに能動的になれるのか？
- 2 学びに意欲を失った子どもの能動性を引き出す
- 3 コミュニケーションが苦手な子どもの能動性を引き出す
- 4 活動性の乏しい重度重複障害のある子どもの能動性を引き出す

お申し込み

セミナーに参加をご希望の方は、以下の流れに沿ってお1人様分ずつお手続きください。

- 1 セミナーご案内ページにて詳細を確認ください 
<https://atac-lab.com/seminar202111/>
- 2 「参加チケットを購入する」ボタンをクリックして、申し込みページに移動します
申し込みページは、「Peatix(ピーティックス)」のシステムを利用しております。
「Peatix」を初めて利用される場合は、会員登録 をお願いいたします(無料)。
- 3 申込完了のお知らせメールを受信
お支払いが完了しましたら、Peatix アカウントのメールアドレスに、「Peatix」から受付完了メールが自動送信されます。
- 4 当日、会場にて受付を行う
当日は、受付にてスマホもしくは印刷物に表示されているチケットの QR コードをご提示いただくか、お名前をお伝えください。

エイタック

ATAC カンファレンス事務局

株式会社 atacLab | エイタックラボ
〒150-0036 東京都渋谷区南平台町 16-28 Daiwa 渋谷スクエア 6F
Tel:03-4360-5078 / Fax:03-5539-4612
e-mail:seminar@atac-lab.com URL:https://atac-lab.com

新型コロナウイルス感染予防対策にご協力ください

※マスクを着用してご参加ください。

※体温37.5度以上の方はご入場できません。